

# 創立記念日を迎えるにあたって

石川県立輪島高等学校

“学問なくして奥能登の発展はありえない”との想いを持った地域の方々の力強いご支援により、大正12年に『県立輪島中学校』が創設されました。

昭和23年の学制改革で、輪島中学校は県立輪島高等女学校（大正15年に創設）との統合により『石川県立輪島高等学校』と改称。5月15日に町民あげての開校記念式典が挙行されました。（この日を本校の創立記念日と決定し、7月には校章が制定された。また、昭和25年3月には校旗と校歌を制定した。スクールカラーはエンジ）今年、大正12年を起点として数えると創立98年目になります。この間、常に能登の中心校として屹立し、1万7千人を越える卒業生が各方面で活躍をしております。

本校は、勉強ばかりでなく部活動も盛んで多くのスポーツ選手を輩出してきました。中でも、昭和31年（1956年）のメルボルンオリンピックに3年生在学中の山中毅選手が水泳競技の400m・1500m自由形に出場し、2個の銀メダルを獲得しました。4年後のローマオリンピックには、本校卒業生の山中・大崎・井筒の三選手が水泳競技に出場し、銀メダル3個・銅メダル1個を獲得するなど水泳王国輪島高校の名を全国的に知らしめたことは、今なお語りぐさになっています。また、2018年冬季平昌オリンピック大会スケルトン競技には小口貴子選手が出場しました。他にも多くの人たちが、県大会での優勝、あるいは全国大会での上位入賞という輝かしい成果を上げるなど、先輩方の努力によって名実共に文武両道の校風が創られました。

**輪島高校は本年度創立98年目を迎えます。地域の皆様に支えられながら、諸先輩の努力と多くの方々の労苦によって築かれた伝統の重みを受け止めると共に、新たな輪島高校創造の担い手である自分を考える日として創立記念日を位置づけ、有意義に過ごして下さい。**

## 【校章の由来】

現在の校章は昭和23年に制定されました。当時2年生に在学していた万寿文一郎さんの作品です。「桐花」を図案化したもので、桐の葉の中央に「高」の字が配されています。

古来中国では、桐は鳳凰が宿る木として神聖視されました。鳳凰とは、中国の古典である『礼記』によると、麒麟・亀・龍とともに四霊とよばれる想像上の霊鳥です。雄は「ほう」と鳴くため鳳といい、雌は「おう」と鳴くので凰と呼ばれました。郷土の古名である「鳳至郡」にも「鳳」の字が用いられています。本校の前身である旧制輪島中学校は、鳳凰の宿る桐の葉を図案化して校章としており、また、旧制輪島高等女学校は鳳凰そのものを校章に取り入れていました。

鳳凰の雛を鳳雛といいますが、これは年若い英才を意味する言葉でもあります。鳳雛が宿る木である桐には、「前途有為の少年の宿る」という意味が含まれていると解釈できます。生徒の限りない可能性を開花させたいという願いが、この桐章に象徴されているのです。

令和2年5月14日